

平成21年度
事務事業の点検及び評価報告書

平成22年11月
恩納村教育委員会

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の執行及び管理状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないことになりました。

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第27条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用も図りました。

この報告書は、毎年作成し、公表していくこととなりますが、教育委員会としては、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくこととしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は5名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。

通常業務については、委員の中から選任された教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、村長が議会の同意を得て選任し、その任期は4年となっています。平成21年度は、島袋委員と渡口委員が留任し島袋委員が委員長に再任されました。

平成21年度の教育委員は次のとおりです。

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			当初就任	勤続年数	
委員長	島袋正重	平成21年5月1日～平成25年4月30日	平成13年	3期9年	委員長9年
委員	仲本政夫	平成18年4月1日～平成22年3月31日	平成14年	2期8年	委員長職務代理者
委員	渡口美智子	平成21年7月1日～平成25年6月30日	平成17年	2期5年	
委員	宜志富栄	平成19年4月1日～平成23年3月31日	平成19年	1期2年	
教育長	石川哲夫	平成22年4月1日～平成26年3月31日	平成22年	1期1年	

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜臨時会を開催し、必要事項を審議し決定しています。また、各種の主催事業や村の各種行事、各種の研修会などにも積極的に参加しています。

平成 21 年度の教育委員会の会議の開催状況は次のとおりです。

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
4 月定例会	4 月 21 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村「心の教室相談員」設置要綱の制定の件 4. 恩納村遠距離通学補助金交付要綱の制定の件 5. 恩納村体育指導員の委嘱の件 6. 恩納村立学校評議員の委嘱の件 7. 公の施設の係る指定管理期間の延長の件 8. 教育委員長候補者の選任の件
5 月定例会	5 月 25 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村学校評議員追加委嘱の件 4. 恩納村体育指導員の委嘱の件 5. 恩納村心の教室相談員の委嘱の件
6 月臨時会	6 月 11 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回会議概要の承認 2. 児童生徒理解のための指導・支援カルテの件 3. 教育委員会の事務事業点検評価の件
6 月定例会	6 月 22 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価に関する規則の件 4. 恩納村教育委員会事務事業外部評価委員会設置要綱制定の件 5. 恩納村要保護準要保護児童生徒認定の件
7 月定例会	7 月 21 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村教育委員会事務事業点検評価外部評価委員会委員委嘱の件 4. 恩納村「心の教室相談員」の辞職の承認の件
7 月臨時会	7 月 27 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回会議概要の承認 2. 平成 20 年度恩納村教育委員会事務事業点検及び評価報告書の件
8 月臨時会	8 月 3 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回会議概要の承認 2. 平成 20 年度恩納村教育委員会事務事業点検及び評価報告書の件

8月定例会	8月21日 午前10時	役場1階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村文化財保護審議会運営規則の承認の件 4. 恩納村立幼稚園保育料減免申請者決定の件
8月臨時会	8月31日 午前10時	役場1階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 平成22～23年度使用中学校教科用図書採択の件
9月定例会	9月18日 午後2時	役場1階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回概要の承認 2. 教育長の業務報告
10月定例会	10月21日 午前10時	役場1階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村心の教室相談員の委嘱の件 4. 恩納村体育指導員の委嘱の件
11月臨時会	11月6日 午前10時	役場1階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 「恩納村の教育」策定の件
11月定例会	11月21日 午前10時	役場1階会議室	3人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村立図書館計画推進委員会委員の委嘱の件
12月定例会	12月21日 午後1時30分	役場1階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村教育委員会の権限に属する事務の一部委任に関する規則の一部改正の件 4. 恩納村「心の教室相談員」設置要綱の一部を改正する要綱の件
平成22年1月定例会	1月21日 午前10時	役場1階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・恩納村教育委員会の活性化について教育長より提案
2月定例会	2月22日 午前10時	役場1階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村立学校管理規則の一部を改正する規則の件 4. 平成22年度村立幼稚園教諭定期人事異動内示（案）の承認の件 5. その他の協議事項

3月臨時会	3月1日 午前10時	役場1階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回来議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 平成22年度公立学校管理職定期人事異動内示の承認の件 4. 平成22年度教育委員会職員に係る人事異動内示（案）承認の件 5. 職員の勸奨退職の承認の件 6. その他協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 恩納村施政方針について ・ 職員室統合による進捗状況について ・ 子どもと向き合うゆとりを学校に取り戻すための要請(沖教祖) ・ 感動的で創造的な卒業式・入学式にするための要請（ 〃 ）
3月定例会	3月25日 午前10時	役場1階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回来議録の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村博物館非常勤館長の任命の件 4. 恩納村社会教育委員の委嘱の件 5. 恩納村社会教育指導員の委嘱の件 6. 恩納村「アメリカホームステイプログラム」派遣実施要項の制定の件 7. 恩納村各種競技等の県外派遣に関する補助金交付要綱の一部改正の件 8. 恩納村人材育成のための激励金等支給要綱の一部改正の件 9. 恩納村体育指導員の委嘱の件 10. 平成22年度恩納村立各学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱の件 11. 恩納村教育相談員委嘱の件 12. 恩納村心の教室相談員の委嘱の件 13. 恩納村立学校評議員の委嘱の件 14. 恩納村立博物館職員の採用の件 15. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成22年度研修会における分科会協議題資料について

なお、教育委員会で審議された案件を、分類すると次のようになります。（議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。）

条例関係	規則・規定・要綱等	人事関係	その他	合計
0件	11件	23件	16件	50件

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させています。

平成21年度中における主催行事や学校行事への教育委員の出席状況は、次のとおりです。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平成21年4月1日	役場2階会議室・1階会議室	平成21年度職員辞令交付式	島袋委員長・教育長
4月2日	総合保健福祉センター	平成21年度教職員辞令交付式	全委員
4月7日	喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館	小中学校入学式 中学校入学式	石川教育長 島袋委員長
4月8日	仲泊小中学校体育館 安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 山田小中学校体育館	小中学校入学式 小中学校入学式 小学校入学式 小中学校入学式	渡口委員 宜志富委員 島袋委員長 仲本委員
4月9日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式 入園式 入園式 入園式 入園式	宜志富委員 石川教育長 島袋委員長 渡口委員 仲本委員
6月2日	安富祖小中学校	学校訪問	8時から12時
6月3日	喜瀬武原小中学校	学校訪問	〃
6月4日	恩納小中学校	学校訪問	〃
6月8日	仲泊小中学校	学校訪問	〃
6月9日	山田小中学校	学校訪問	〃
7月1日	山田小中学校	中頭地区総合訪問	全委員
8月14日	ゆうなホール	学対教育講演会	全委員
9月28日	安富祖小中学校 喜瀬武原小中学校	学校訪問 〃	午前 午後
9月29日	恩納小中学校	学校訪問	8時から12時
10月1日	仲泊小中学校	学校訪問	8時から12時
10月2日	山田小中学校	学校訪問	8時から12時
10月4日	安富祖小中学校	運動会	宜志富委員・石川教育長
10月11日	仲泊小中学校	運動会	渡口委員・仲本委員・石川教育長

10月18日	喜瀬武原小中学校 恩納小中学校	運動会 〃	教育長 〃
10月29日	山田小中学校	運動会	教育長
11月13日	中学生フォーラム	ゆうなホール	全委員
平成22年1月4日	コミュニティーセンター	平成21年度成人式	全委員
1月22日	ゆうなホール	村学対実践発表大会	全委員
1月31日	恩納小中学校 仲泊小中学校 山田小中学校	学習発表会 〃 〃	島袋委員長・石川教育長 島袋委員長・渡口委員・石川教育長 仲本委員・石川教育長
2月7日	安富祖小中学校	学習発表会	石川教育長
2月11日	喜瀬武原小中学校	学習発表会	石川教育長
2月13日	宜野湾市民会館	中頭学対実践発表大会	全委員
3月2日	健康福祉センター	学力向上対策委員会	全委員
3月14日	安富祖中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館	中学校卒業式 小中学校卒業式	宜志富委員 石川教育長
	仲泊中学校体育館 山田中学校体育館	中学校卒業式 〃	島袋委員長・渡口委員 仲本委員
3月18日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	卒園式 卒園式 卒園式 卒園式 卒園式	宜志富委員 石川教育長 島袋委員長 渡口委員 仲本委員
3月19日	安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	小学校卒業式 小学校卒業式 小学校卒業式 小学校卒業式	宜志富委員 石川教育長 島袋委員 仲本委員
3月31日	2階会議室	退職辞令交付式	島袋委員長

(4) 研修会や懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。また、21年度から地域の声を村教育行政に反映させるため、村内の各団体との意見交換会や懇談会を開催しています。平成21年度の研修会や懇談会等への出席状況は、次のとおりです。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
平成 21 年 5 月 11 日～ 12 日	北中城村立公民館	第 54 回市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会	全委員
6 月 9 日	中頭教育事務所	県教育委員、中頭管内市町村教育委員との意見交換会	全委員
6 月 19 日	北中城村あやかりの杜	平成 21 年度中頭地区市町村教育委員会研修会	全委員
7 月 10 日	那覇市民会館	平成 21 年度市町村教育委員研修会	全委員
8 月 12 日	健康福祉センター	教育懇談会	全委員
12 月 21 日	1 階会議室	村長との意見交換会	全委員
平成 22 年 2 月 3 日	県庁講堂	平成 21 年度市町村教育委員・教育長研修会	全委員
2 月 10 日	役場会議室	PTA 役員と教育委員の意見交換会	全委員

3 事務の点検評価について

平成 20 年の事務の点検及び評価の項目は、初年度ということから「恩納村の教育」に示された事業一覧の中から、主な事業を抜き出して行いましたが、平成 21 年度については、前年度の評価対象事業に加えて、施政方針に示された事業など主な新規事業も対象としました。また、効果的かつ効率的な事業の実施を行なうため、前年度の課題への取組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行なうこととしました。

そのため、事業評価シートの項目を「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取組み」、「事業の成果」、「評価」、「総合判断」に改めました。総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続、
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の 3 項目で判断することにしました。

しかしながら、評価が翌年度の 9 月に行なわれることから、課題に対する取組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取組みは 1 年遅れになることがあります。

評価の方法については、外部評価委員からわかりにくいとの指摘があったことから、4 段階評価に目標以上に効果をあげることができた場合の評価指標 (S) を加えて次のとおり 5 段階評価に改めました。

- S：目標以上に事業効果をあげることができた。
- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成21年度の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

1 学校教育課所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育委員会研修事業	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	内部研修会や勉強会の開催	施政方針や新年度予算について議論し、教育行政に関する認識を深めた。 村PTA連合会との意見交換会を開催し、本村の教育の課題について認識を共有するよう努めた。	委員各自が本村の教育の課題を認識し、各種事業に積極的に参画するようになった。 また、会議における議論が活発になった。	更なる自主研修の実施。	B	① 現状で継続
学校事務職員研修事業	学校教職員の事務能力の向上及び事務の能率化をはかるため、毎週水曜日の午前中に3時間程度安富祖校に集って給与、服務、文書の取り扱いなど共同実施を行った。また、臨時的任用職員配置校の支援。	より効果的な事業効果をあげるには教育委員会事務局との連携が必要。	教育予算・教職員に関する服務に業務等は教育委員会と連携を密にし、進めることが出来た。	相互で書類をチェックを行うことが出来た。業務の問題解決の場となっている。知識の共有化が図れた。	平成21年度は美術室で共同実施している場を変更したい。各校が事務職員一人配置のため行事等で実施出来なかった。行事日程を考慮してほしい。	B	① 現状で継続
学校評議員設置事業	村民の意見を学校経営に取り入れることで地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に5名以内の学校評議員を配置した。	各学校評議員会の開催日数や評議員の出席状況に差がある。	学校評議員制度の効果的な運用を図るため、村校長会で、その積極的な活用を協議した。	学校評議員の学校に対する関わりが出てきた。	評議員の出席に個人差があり、人選に工夫が必要	B	① 現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
校長会・校務研修事業	学校と教育委員会が教育に関する情報交換を密にすることにより、課題を的確に捉え、学校経営及び教育行政に反映させる。	より効果的な活動を推進するため、教頭会を置き、必要な情報交換を行なう必要がある。また、視察研修も校長、教頭交互に派遣する必要がある。	○ 校務研究会に校長部会、教頭部会を設置し、それぞれ毎月部会を開催した。年2回は合同会議を開催し、意見交換及び反省会を開催した。 ○ 視察研修を各部会交互に実施することとし、21年度は教頭部会を小中一貫教育実施校に派遣した。	○ 校長・教頭間の情報の共有化が推進され、行政・学校の意思疎通がスムーズになった。	○ 各学校の経営状況や恩納村の教育の課題を全体で把握し、改善策を検討するなど、より具体的な情報交換の場としての活動が望まれる。 ○ 視察研修結果の学校経営への活用の推進	A	① 現状で継続
教育相談事業	各種の事情で不登校になっている子ども並びに保護者の相談に応じ、必要な支援を行い改善を図る	心の教室相談員との情報交換など学校との連携を更に綿密に行なうなどの工夫が必要	心の教室相談員の連絡会議に教育相談員を参加させ、情報の共有化を推進した。	不登校の児童生徒に対する個別授業の実施など教育相談員と学校と連携した事業が推進できた。	相談業務の充実のため、教育相談員について村民への周知策が必要。	B	① 現状で継続
教育委員会学校計画訪問	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況の確認	学校の改善状況の把握 (校務研等の連携)	主要三施策の活用方針等の説明依頼	2回目の学校訪問でも授業参観を組んでもらい、授業改善の効果を検証	教育委員と教職員との意見交換の場が欲しいと委員からの要望	A	① 現状で継続
中学生フォーラム事業	生徒会の主体的な運営で、生徒会に係る課題等を協議することにより生徒会活動の活性化と発表力、表現力、協調性を育成する。	統一課題を一つ設定し、各学校のアプローチの仕方を紹介する方法を検討する。また、進行に際し議論を高めるため、フロアの意見をもっと積極的に取り上げるなど運営方法について指導が必要。	司会運営に当たる学校の指名の仕方やフォーラム宣言についての提示の仕方を事前に確認	中学生らしい意見の交流が見られた。全員参加することで、各学校の取り組みへの興味・関心が高まっている。	質疑をもっと活発にするために資料を基にした質問事項を、事前に該当校へ送る取り組みが必要ではないかとの反省がでた。 新型インフルエンザ等への対応	B	① 現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
奨学資金貸与事業	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	長期的に返還が滞っている人がおり、今後の貸与資金の確保の観点からも回収の促進が急務となっている。	近年、貸与された奨学金については、順調に返済されているが、以前からの滞納者については、依然として返還が滞っている人がいる。定期的に請求書・支払明細書を送付。	県内17名県外16名合計33名に対し1182万円を貸与した。	今後も、返済については積極的に自動送金システムを勧め、貸金を少しでも多く回収したい。	B	① 現状で継続
恩納村テスト事業	村内児童生徒の国語や算数（数学）の学習状況を把握する	問題の作成方針・内容について現場の教師との確認が必要	問題の作成方針・内容・出題範囲について事前に学校へ通知した	12月に実施される県の到達度調査に向けて児童生徒の課題が明確になった	作成に現場の教師を活用して、継続性を持たせた事業にすべき	B	② 事業見直し継続（作問委員会設置）
職場体験学習事業	村内5校の中学2年生を対象に正しい職業観を身につけさせることをねらいとする	派遣先で、マナー、態度の面で指導を受ける生徒がいて、事前の指導や講習会を強化する必要がある。	各学校でのマナー講習会等の取り組みを充実させる。	マナーや学習態度が改善されたと事業所からは昨年より良い評価を頂いた。 役場での体験希望者への対応として、委員会での受入実施	生徒個々の評価が分かれていて、全体として、受け答えや態度の指導に努力が必要 職種の拡大を検討すべき	B	① 現状で継続
インターネット学習環境支援事業	児童生徒のインターネットを使った調べ学習等を支援し、インターネット活用能力の向上を図る。	インターネット活用能力がどの程度ついているか検証する取り組みが必要。	事業継続中。22年度において、支援助手の派遣のあり方等を含めて、検討する。	パソコンは各学級の児童生徒一人当たり1台の割で整備され、学習環境は整っている。	環境整備については、現時点において課題は見当たらない。効果的な活用がされているか、検証が必要。	A	① 現状で継続
幼稚園教職員研修の充実	幼稚園教諭の資質向上	教師の資質の向上は最重要課題である。目的を明確にした県外視察研修への派遣及び教諭の派遣時間の確保を検討していく必要がある。	教育課程研修、村内研修会等、教諭の資質向上を目指した取組をしている。	幼児教育への更なる学習を深める事ができた。	・県外研修会、県内サマースクールへの予算の確保 ・担任としての教材研究と園内研修の時間確保	B	① 現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
幼稚園の絵本等の整備の充実	絵本に親しむ幼児の育成	継続的な図書購入のための予算の確保	予算確保ができた	図書環境が充実し、貸し出し、親子による読み聞かせで絵本に親しむ環境構成ができた	絵本に関する更なる啓発活動	A	①現状で継続
幼稚園の管理備品・保育振興備品の充実	保育環境の充実	遊具の安全点検の実施及びその活用方法の研究	業者による安全点検の実現と施設担当との連携	安全確保ができた	業者による継続的な点検	A	①現状で継続
幼稚園の自然環境・人材を活用した保育活動の充実	具体的・直接的な体験活動の実施	多様な経験を有する人材を活用するため、各種団体との連携	人材バンク活用の実施	幼児の具体、直接的体験ができた。	様々な人材を活用するための情報収集	B	①現状で継続
教育振興備品の充実	教材備品の活用により生きる力を育む効果的な学習を実施する。	教師によって必要・不必要となる備品があり、計画的かつ効果的な購入について学校の意識啓発を行う必要がある。	過去実施されていなかった、教育委員会独自の備品監査を実施した。	教育委員会独自の備品監査を実施したことにより、備品登録はもちろん廃棄備品等にも目を向け教諭等の備品に対する意識も高まった。	今後も、教育委員会関係行事予定表(村内全世帯配付)に備品監査日を印字し、継続的な備品監査の実施が必要である	B	①現状で継続
就学支援事業	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に恵まれない児童生徒の教育を支援する。	援助を必要としている児童の保護者が申請しているかどうか、また補助金が学資に活用されているのかについての検証が必要。	申請されている・事務職員・教頭と連絡を取り活用されたかは確認している	教頭・事務職員等と連携したことによって保護者の意識が高まりつつある。	今後も学校と連携の必要である。	B	①現状で継続
宿泊学習事業	村内児童の交流及びコミュニケーション能力の向上	2泊3日は、児童にとってきつい日程と思われ疲れが見られた。効率的な日程について検討が必要である。	1泊2日に縮減し、各学校の役割分担を明確にして取り組んだ。事前交流学习を実施し、宿泊学習の効率化を図った。	前年度に比べ、役割の明確化を図ったことと、事前交流の成果で、計画したプログラムがスムーズに進行でき、交流を深めた	次年度参加できない学校があり、同事業を継続するかどうかを検討する必要がある	A	②次年度検討 ※各学校意義を認めつつ、結論が出せず、次年度検討

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
心の教室相談員事業	児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活が営まれる学校環境をつくる。	相談員は、児童生徒との信頼関係を保持し、適切なアドバイスをおくるなど高い資質が望まれるが、人材の確保が難しい。	インターネット広告やや相談員の紹介で県内から広く人材を求め、最終的には派遣先の学校長や教頭を交えて面接試験を行い、資質の高い人材確保に努めた	1名退職により、相談員の確保を配置換えや新規1名採用で対応	年度途中で「配置換えした相談員が退職したため、後の人員確保に時間がかかり、相談業務に支障が生じた	C	①現状で継続
情報教育推進事業	各学校の児童生徒のコンピュータ操作能力及び活用能力の向上を図る。	今後は指導員に頼らないで教師が直接指導できるよう教師のコンピュータ指導能力の向上が必要。	学校によっては、夏休み期間中にパソコン活用研修が実施できた。	指導員のサポートにより円滑かつ効果的にパソコン関係の授業が実施できた。	人材確保と予算の継続	B	①現状で継続
特別支援員配置事業	障害のある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。	予算及び支援員の確保。支援員と学校の連携	支援員を増員し、必要な支援を実施	個に応じた必要な支援を実施することができた。	人材確保と予算の継続	B	①現状で継続
英語指導助手派遣事業（ALT）	児童生徒の英語力の向上	継続的な予算の確保と効果的な運用を図るための1年間を通しての活用計画の策定。	ALTを期間ではなく、授業時数で契約している事を学校へ周知し、2月、3月までの指導計画を確認させた。	ある程度効果的にALTを活用できた。次年度契約の際に中学校英語教諭を立ち合わせて確認した	年度途中で契約時数が切れて、補正を組んだ事例があり、学校の詳細計画が必要	B	①現状で継続
対外競技派遣事業	生徒の文化、スポーツの振興	文化活動の活性化	部活動の有無に関係なく、中体連など公式競技で県代表になった団体及び個人に派遣費を支給した。	学校における教育活動（大会参加料・派遣費）等保護者の負担を軽減できた	予算の確保	B	①現状で継続
中学校部活動支援事業	中学校の文化、スポーツの振興	運動部は活性化しているが、文化活動の活性化と全生徒の部活動参加が課題である。	音楽発表会や合唱コンクール等各学校が参加することができた。	学校における教育活動（部活消耗品）等保護者の負担を軽減できた	予算の確保	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
知能検査 標準学力検査事業	児童生徒の学力の定着 状況の把握	学習到達度検査を 12月に実施し、当該 学年の学習内容を定 着して学年のたすき を渡す	結果説明会を実施し、デー タの見方等の技能向上を 図る	専門講師による説明会 を開催し、恩納校で実 施。一部学校ではこの データを基に学習支援 員活用を実施	学級内の児童生徒 の状況を踏まえて の個別指導へとつ なげる必要がある	B	① 現状で継続
安富祖小学校校舎 改築事業	安心・安全な教育環境 の確保	21年度新規事業	老朽化している建て替え に係る文部科学省及び防 衛省の補助の採択に向け て調整を行い、採択され た。 建築工事は、22年度に 繰り越して実施。	補助金の活用すること で、村の財政負担を軽 減することができた。	円滑な改築工事の 実施	A	①現状で継続
山田小中学校校舎 改築事業	安心・安全な教育環境 の確保	21年度新規事業	23年度事業採択に向けて 基本設計、実施設計を行っ た。	事業採択に向けて関係 部局と調整中。	事業の採択	B	①現状で継続
学校施設持管理事 業	適切な学校の施設及び 設備の維持管理を行な うことによるよりよい 教育環境の確保	遊具については専門 的な見地からの検査 が必要。また、学校 の設備は多種多様化 しており、その全て に対応するには予算 の確保が厳しい。	遊具については専門家に 委託して安全点検を実施 した。 修繕については、安全性 の確保を最優先に実施し た。	各学校の施設や設備の 修繕を迅速に行なうこ とにより適切な維持管 理が図られより良い教 育環境が確保できた。	各学校の体育館の 雨漏り対策に対す る工法の検討が必要。	A	①現状で継続

2 社会教育課所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学校週5日制対応事業	地域及び青少年団体が開催する事業を村が支援する。	事業が定着し、普及している中で、新たなメニューの創作が必要とされる。	各子ども会へ義業の周知を行い、団体からのニーズに対応した事業の展開を図った。	4字の子ども会が、伝統工芸教室、博物館視察、エコツアー体験等の事業を実施。約216名が参加し様々な体験をする事が出来た。	事業の申請をする団体が少なく更なる周知徹底が必要。	A	①現状で継続
国際交流派遣事業	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。	貴重な体験の場であり、応募者を増やし、派遣人数を増やす工夫が必要。	周知徹底を図るため、応募時期を早めに設定し、各学校、各公民館で事業の説明を行った。	中学生2名、高校生4名を派遣。「事業に参加したくて小学校の頃から英語を勉強している」「将来は英語を活かした職業に就きたい」等参加者の意欲の向上が伺える。	今後も事業の周知を図り、応募者を増やす努力が必要。	A	①現状で継続
成人式事業	村内の各団体の代表者が一堂に会し、新成人を励まし、祝う。	毎年同様な内容で開催されておりマンネリ感は否めない。新成人の希望を取り入れた内容を検討する必要がある。	恩師の方々のビデオメッセージが好評なので、ビデオメッセージの編集作業を予算化。	毎年早い時期から問い合わせがあるなど参加者の意識は高い。21年度は90名が参加し厳かに開催することができた	アンケートを実施して、成人式に何を求めているかを把握し、式の内容を検討する。	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
シルバー教室	高齢者が仲間とのふれあいを通して、生きがいを見い出すことのできる機会の創設	参加者のニーズと主催者側が取り組んでほしい講座とのずれがあり、その調和を図る工夫が必要	アンケート調査を行い、学習内容についての検討を行った。 講座の目的や趣旨を理解してもらう為、広報やチラシを発行	全10回開催で232名参加。生活に役立つ内容の講座が好評だった。また講座をボランティア活動に繋げ、学びが地域との繋がりや生きがいになることを実践出来た。	ミニデイダービスやがんじゅう大学と内容が重複しない、生涯学習として生きがいや社会貢献に繋がる講座を参加者の要望も取り入れながら開設する。	A	①現状で継続
らくらく子育て教室	子どもたちの「生きる力を育む基礎的な資質や能力を育成する場である家庭の教育機能の回復及び充実を支援する。	20年度から実施した夏休み子ども料理教室は大好評だった。参加者は校区によって差があり参加者を増やす工夫が必要	子ども料理教室は、参加呼びかけを学校に協力依頼した。 らくらく子育て教室は、年間計画の情報を早い時期から知らせて参加を促した。	子ども料理教室は4回の開催で62名の参加。積極的な参加態度が見られた。 らくらく子育て教室は6回の開催で大人63名。乳幼児150名の参加があった。	子育て教室は、子育て支援センター利用者が中心となり参加者の幅が狭い。参加者と地域との交流や情報の発信の強化が必要。	A	①現状で継続
生き生き女性教室	現代社会を理解し、社会的視野を広げる場を提供し、女性の地域づくりへの参加を推進する。	女性が参加したいと思う講座を企画し参加者を増やす工夫が必要。	アンケート調査の実施。関心の高かった健康・スキルアップ・社会動向に対応した講座（PC講座・図書館見学）を実施。	9回の講座で150名の参加。 新規の参加者が増え、年齢層も広がった。生涯学習を身近に感じてもらった。	要望の多様化に対応しつつ個人の楽しみに終始することの無いよう、社会参加や地域リーダー育成に繋がる講座を開設する。	A	①現状で継続
婦人・青年リーダー育成事業	婦人会役員、青年会役員を対象にして研修を行い、地域リーダーとしての資質や指導力を高める	婦人会、青年会の身近な活動に生かせるような研修の工夫が必要。	婦人会役員・青年会役員とも、研修会へ派遣することが出来なかった。	婦人会・青年会とも5月の段階で役員選出が出来なかった為、研修会へ派遣できなかった。	婦人会・青年会活動が低迷しているので、活性化できるように教育委員会として助言することが必要。	D	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
青少年劇場小公演事業	優れた芸術を直に鑑賞し、感動と歓びを与えることを目的とする。	今後は、学校等のニーズに対応して実施していく必要がある。	事業趣旨の周知を徹底する。	各学校のからの申込が無く、実施されていない。	事業の趣旨を周知し、積極的に事業の実施を促進する。	D	①現状で継続
村青少年健全育成事業	村の補助事業として村内各団体で青少年健全育成協議会を組織し、次代を担う青少年の健全育成を図る。	中学陸上は各字対抗陸上競技大会と同時開催しているが、学校行事や運動会と重なることから、調整を密にして日程を決める必要がある。	中学陸上の開催について、学校や地域と綿密に調整を行った。	少年の主張大会・少年野球大会・中学陸上競技大会は多くの参加者で盛況に開催できた。夜間街頭指導も各団体の協力で毎月開催できた。	夜間街頭指導の方法に工夫が必要（参加者、時間帯等）。専門委員会を開いて今後の取組の改善を図る。	B	①現状で継続
各自治会公民館講座・学級等の充実	地域住民に対して学習機会を提供するとともに指導者養成を図る。	婦人会が主になっているので、男性も参加できるような講座の開設が必要	各公民館で男性の皆さんも参加できる講座を勧めた結果、1公民館の講座で男性の参加者が数名いた。	公民館講座で取得した技術を、講座修了後にサークル的に活動を継続している。	今年度、公民館講座の開催を希望した公民館は5字。もっと多くの公民館が講座開催できるよう講座の紹介等を積極的に行う。	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実	地域住民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	新体力テストは、福祉健康課とタイアップして、村民の健康に対する意識の向上を図る必要がある。	<p>○新体力テストについては、福祉健康課と調整し、福祉まつりのプログラムの一つとして開催した。</p> <p>○体育指導員を有効に活用し、村民への直接声掛け等をとおして、各大会の参加者の増加を狙い、周知活動をした。</p>	<p>○新体力テストは、福祉健康課とのタイアップ事業として開催し、30名の参加があり、村民の健康に対する意識の向上に寄与できた。</p> <p>○各大会とも体育指導員の周知活動のおかげで、村民が多数参加し、参加者相互の健康増進及び親睦が図られ成功裏に事業を終えることができた。</p> <p>○特に、婦人を対象としたキンボール大会を、参加者から好評を得ている。</p>	<p>○新体力テストは、タイアップ事業として今後も継続する。会場地に十分なスペースがないため、実施できない種目があり、会場の確保が必要。また、参加者の年齢層に偏りがあるので、あらゆる年齢層が参加できるように各団体等への協力依頼や広報活動をする必要がある。</p> <p>○壮年ソフトボール大会等は参加チームも多く好評であるが、内容等の見直しが必要。</p> <p>○キンボール大会は、参加者からも好感触なので、さらに良い大会にするために運営方法を検討して、開催する。</p>	B	<p>②事業内容を見直しして継続</p> <p>※新スポーツの取り入れ等</p>

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
村体育指導員の活動支援	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、体育指導委員個々の資質の向上を促す。	体育指導員、個々の更なる資質向上のためにも、企画、運営等を含めて意識の改革が必要である。	○資質向上のため、定例会での活発な意見交換、各種研修会への積極的な参加を促した。 ○研修等に積極的に参加し、資質向上に努めるよう啓発し、自主的に企画運営し、教室等の開催に取り組んだ。	○各種研修会へ参加した結果、意識の向上が見られるようになった。 ○自立した企画運営が見られるようになり、教室等の社会体育事業等がスムーズに開催された。	○これまでの取り組みの結果、体育指導員の資質向上につながっているため、引き続き指導・助言が必要。	A	①現状で継続
村体育協会、国頭郡体育協会の活動支援	恩納村及び国頭郡の体育協会に補助金を交付し、その活動を支援することによりスポーツの振興を図る。	行政の過度の関りはその主体性を損なう恐れがあり、自立運営を促す必要性を痛感しているが、現実問題として、自立は厳しい。また、競技力の向上は緊急の課題である。	○自立運営に向けての指導・助言の継続。 ○村体協については、競技力向上のため、底辺の拡大、人材の発掘を図るよう指導・助言をした。	○バドミントン部やソフトボール部のように、毎年安定して良い成績を出せる部が増えてきている。 ○ラグビー部が新設され、国頭郡大会でも良い成績をあげ、更にスポーツ振興につながった。	○自立運営については、各字体協との絡みもあるので、長期計画として指導・助言が必要である。 ○村体協については各専門部長等の殆どが村職員で構成されているので、村職員以外から専門部長を積極活用し、開かれた運営体制へ方向転換を長期的に促す必要がある。	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
<p>村立小学校体育施設（プール）の一般開放事業</p>	<p>夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。</p>	<p>各種余暇施設が増えたことにより本事業の利用者が減少傾向にある。利用への啓発や水泳指導者の配置及び水泳教室の開催など、改善策を講じる必要がある。</p>	<p>○利用率の改善を図るために、学校へチラシの配布、児童生徒に事前に授業を利用して事業計画の周知を図った。 ○泳力及び体力向上を図るために、教室等の企画を検討した。</p>	<p>○周知を図った結果、開放期間中一般を含めて1,000名余の利用があり、僅かではあるが利用者が増加した。 ○学童保育所が保育の一環として利用するようになった。</p>	<p>○実質的に泳力及び体力の向上については水泳教室等を開催できず、課題として残っているので、引き続き開催に向けての課題を再確認する。 ○管理人募集の条件に、水泳指導の有資格者を指定する等の工夫が必要。</p>	C	①現状で継続
<p>各種団体等県外派遣補助事業</p>	<p>村民のスポーツに対する意欲を向上させ、各種スポーツの振興を図る。</p>	<p>スポーツの振興に有効であるが、継続した予算確保が課題である。</p>	<p>○予算確保に向けて、事務調整を図った。</p>	<p>○小学2団体・1名、中学生1名、実年1団体、一般1団体の対象者全体へ補助をすることができ、スポーツ振興の向上につながった。</p>	<p>○特に課題もなく、村民のスポーツ振興や競技力向上に寄与しているので、今後も事業継続が必要である。</p>	A	①現状で継続
<p>人材育成激励金支給事業</p>	<p>村民のスポーツに対する意欲を向上させ各種スポーツの振興を図る。</p>	<p>スポーツの振興に有効であるが、継続した予算確保が課題である。</p>	<p>○予算確保に向けて、事務調整を図った。</p>	<p>○高校生13名、大学生7名、一般7名の前対象者へ激励金を支給することができ、スポーツ振興の向上につながった。</p>	<p>○特に課題もなく、村民のスポーツ振興や競技力向上に寄与しているので、今後も事業継続が必要である。</p>	A	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
平成22年度全国高校総合体育大会恩納村実行委員会補助事業の充実	平成22年度全国高校総体のソフトボール競技大会が本村で開催されるにあたり、実行委員会に補助金を交付し、その円滑な運営を図る。	大会の円滑な運営を図るためには地域及び共催地との連携が必要である。	○共催地との連携を密にするために、先催地視察を同日程で行った。 ○共催地や関係機関と連携して、大会運営費の試算を行った。	○第2回総会が開催され、役員体制及び活動計画が承認され活動を開始した。 ○先催地視察の結果、問題点等を共有することができた。	○大会の円滑運営を図るために、地域及び共催地、関係団体との連携が引き続き必要である。	B	①現状で継続
村体育施設維持管理事業	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行なわせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	指定管理者による自主事業の開催、更なる利用率向上のための支援や助言が必要である。また従業員の村民優先雇用、村民利用のための利便性の向上策を検討していく必要がある。	指定管理開始2カ年度目に入ったが、まだ施設管理に対する年間サイクルをこなすのが必至の現状である。その中で、自主事業を開催し、利用率向上を図る。また、村民優先雇用等の助言の継続。	管理費用の軽減が図られるとともに良好な管理が行なわれ、各種のスポーツ行事が開催され利活用が増加した。	3カ年度目に入り、施設管理に対する年間サイクルには順応していると思われるので、自主事業の検討、村民優先雇用、村民の利用率向上のための施策を検討する必要がある。	B	

3 学力向上対策委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
組織強化対策事業	学力向上対策委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら知・徳・体の三拍子揃った子どもの育成を図る。	活動がマンネリ化し、連携した取組みが機能していない。	○会則を開催し、各字に地域支部を設置し、地域活動の拠点とした。 ○各自治会を訪問し、学力向上対策委員会の目的や地域・家庭の役割を説明し、その特色を活かした活動の推進を要請した。 ○学対推進要綱をコンパクトにした「子ども生き生きプラン」を作成し、村内全世帯に配布し、学対思想の普及と活動への協力を呼びかけた。	○学対活動に対する地域住民の理解が生まれた。	○学校・地域・家庭が連携して活動できる地域支部事業の創設	B	②規模を拡大して継続
教育講演会事業	村民の教育に関する意識の高揚を図ることを目的に著名人を招き、講演会を開催した。 21年度は、元タレントの高見知佳さんを講師にゆうなホールで講演会を開催した。	参加者を増やすことが課題である。今後は村民全体への周知徹底策及び講演会の時間を検討する必要がある。	○講演会のチラシを全世帯に配布した。 ○広報無線で村内に周知を図った。	参加者 130 名余と大きな改善は見られなかった。	本村の細長いという地理的な環境の中では、参加者の増加は厳しい。今後は、校区ごとにPTA・学校連携で実施する方向で検討が必要。	C	② 実施方法を改めて継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
石狩市中学生交流事業	交流体験を通じた知識・能力の向上 人間性豊かな人材の育成を図る。隔年ごとに派遣、受け入れで実施している。 21年度は受け入れ事業として20名の中学生を受け入れて、施設等見学、交流学习、体験学習、民泊体験を実施した。	寒さを軽視して、その土地に応じた行動をできない生徒が体調を崩したので、指導を徹底する必要がある	21年度は受け入れ事業と言うことで、プログラムは、石狩側の作成実施に沿って対応した。 交流会では仲泊校が互いの文化や伝統芸能の交流を行った。受け入れ態勢の充実を学校側へ依頼	全日程について、教育委員会が移動手段の確保を行い、交流がよどみなく行われた。 仲泊校との交流会も和気藹々とした雰囲気の中で充実させることができた。	石狩側に新型インフルエンザの生徒が発生し、一部教師が交流日程からはずれた。 予防注射も受けていて、対策に落ち度はないが、養護教諭の同行が必要である。	B	① 現状で継続
学対推進要綱「子ども生き生きプラン」配布事業	学対推進要項を広く村内に周知徹底するために、内容の要約と、ネーミングの工夫を行った。	21年度からの新規事業	カラーでA3二つ折りを基本に読みやすく、分かりやすく作成	学校を通じて、各家庭に配付。PTA研修、地域懇談会で配付を行い学対の取り組みをアピールできた。	全世帯への配布ができなかったため、次年度は自治会へ世帯数分だけ届ける	B	① 現状継続 (全世帯配付を実行)
学修支援員設置事業	小中に各1名の学習支援員を派遣し、児童生徒の学力の底上げを図る	当初、特別支援員としての配置であったが、学習支援員に置き換えた。	学習支援員としての活用を各学校に明確に指示し、学力向上に向けた活用を依頼した	各学校で授業中の活用や放課後の補習し同等、効果的な活用を工夫できた。	配置学年、対象児童生徒の焦点化などを検討	B	① 現状継続(活用で工夫を行う)
問題データベースの導入	個に応じて、全学年の学習内容を、学習材・プリント作成できるウェブ上のコンテンツを導入	21年度新規導入事業	授業や宿題の課題としての活用を推進	各学校で児童生徒の実態に応じて活用した。	学校間に活用の差が見られ、頻度の低い学校は高い学校へ割り振ることも検討	B	① 現状継続 (契約内容について協議する必要有り)

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教職員先進地視察 研修事業	学力テスト全国1の秋 田市に学力向上の取り 組み、小中連携を学ぶ ため村内教諭 10 名を 派遣	21 年度新規導入事 業	秋田市の教員の教職に 対する姿勢や教育のシ ステムを学び小中一貫 した教育の考え方を恩 納村の小中連携に生か す	参加した教員全員が 秋田の教師の姿勢に 共感し、共通して教育 する大切さを認めた。 小中連携の在り方、必 要性を認めた	秋田市で学んだ ものを、個人とし て、学校としてど う生かすかが課 題である	A	① 現状継続 (3年継続事業)
学対実践発表大会	恩納村学力向上対策の 取り組みの成果と課題 を、学校・家庭・地域 の立場から検証する	実践発表大会の内容 についての検討	県レベルで活躍した児 童生徒の発表実施 小中連携についての学 校の取り組み発表挿入	時間が当初予定より 超過したが、内容は充 実して好評であった	時間設定と発表 内容の精選	B	②見直し充実

4 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
海に見える博物館 やちむんガラス工 芸展09	村内の伝統工芸を紹介 し、理解を深める	・ 出展者と作品の 増加を図る ・ 体験コーナーを 設置し、多くの方 に伝統工芸を体 験させる。	出展者との連絡調整を 密にし、新規出展者へ の呼びかけと、体験コ ーナーの新設を実施	村内で活動している 陶芸家、琉球ガラス工 芸家 18 名から作品 を展示して貰い、47 9名の来館者があっ た。	出展者や作品の 更なる充実を図 り、地域参加型の 展示会を目指す。	A	①現状で継続
やちむんガラス工 芸体験	伝統工芸の創作を体験 し、その魅力に触れる 事を目的とする	21年度からの新規 事業	チラシ等を作成し、村 民に周知を図り参加者 を募集。	村内で活躍している 陶芸家、琉球ガラス工 芸家を講師とし、体験 学習を実施。25名が 参加した。	継続して、村内の 伝統工芸につい て体験学習でき る機会を作りた い。	A	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
企画展「身近な昆虫たち～恩納の森の生物」	昆虫をとおして村内の自然への理解を深め、自然のあり方について考える	「あの頃のうんな」収集した資料を今後博物館資料として活用を図る	村内で身近に確認できる昆虫を中心に収集し、企画展を実施した。 ・企画展期間中に講座として「昆虫採集と標本づくり」「竹細工で昆虫を作ろう」を開催。	1ヶ月の展示期間中に入館者2435名と村内外から多くの来館者が訪れ、リピーターも多く、アンケートからもとても好評を得ていた。 ・講座においても約70名の参加があり、子どもや親子連れに好評であった。	・企画展をとおして、資料の増加及び展示物の充実に努めたい。 ・様々な講座を取り入れ、参加者の増加を図りたい。	A	①現状で維持
博物館紀要等の刊行	恩納村に関連する研究及び報告に関する情報の発信源とする。また、記録することにより後生に伝える。	平成21年度事業（隔年実施）	恩納村に関連する研究及び報告に関する紀要を刊行した	恩納村の自然、歴史、考古などといったこれまで報告されなかった貴重な専門情報の公開になった。	恩納村に関連する情報収集の充実に努める。	A	①現状で継続
歴史ロードを歩こう	文化財を見て、聴いて、触れることで文化財愛護思想の啓発を図る。	年々増加する参加者への対応を検討する	ボランティアガイドの皆さんや、職員の配置を調整し、参加者の安全確保及び情報提供等に万全の体制で取り組んだ。	村内外から75名の参加者があった。国頭方西海道の歴史的価値を認識させることが出来た。	・ボランティアガイドの協力や職員配置を確立し、今後も村内各団体等に周知を図る。 ・安全確保について配慮が必要	A	①現状で継続
親子文化財めぐり	親子で文化財めぐりを行うことにより、歴史や文化財への認識を高め、文化財保護の啓発を図る。	ワークシート形式等の学習方法の検討	わかりやすい資料を取り入れ、学習の効率を高め、護佐丸と縁のある山田城跡等をたずねる。	インフルエンザの影響により事業を中止した。	継続して参加者が理解しやすい学習機会となるよう努める	D	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
村指定文化財保護事業	村指定文化財の保護と活用	継続して文化財の保護及び活用に努めるとともに指定文化財の確保に努める	博物館等において公開活用するとともに、文化財パトロール等を実施し保護に努める	村指定文化財の公開及び保護がなされている	継続して文化財の保護及び活用に努めるとともに指定文化財の確保に努める	A	①現状で継続
国庫補助事業恩納村内遺跡発掘調査等	国庫補助4カ年事業で、村内の埋蔵文化財の分布状況の把握と開発調査に必要な確認調査の実施	年々増加する開発に伴う埋蔵文化財の保護	瀬良垣、恩納地区の埋蔵文化財の分布状況を踏査し、確認作業を実施した。	調査の結果、新たに埋蔵文化財4箇所を確認。開発に伴う確認調査(太田墓地団地整備に伴う確認調査)を1箇所実施した。	引き続き増加する開発に伴う埋蔵文化財の調査を実施し、その保護に努める。	A	①現状で継続
国庫補助事業山田城跡保存管理計画策定事業	国庫補助2カ年事業で、国指定史跡「山田城跡」の保存管理計画策定事業の実施	平成21年度からの新規事業	保存管理委員会の立ち上げ及び、山田城跡の詳細な現況地形図の作成。	保存管理委員会を立ち上げ、現況地形測量を実施し、地形の把握ができた。	保存管理計画を平成22年度に刊行するため、策定委員会の開催と資料の収集及び作成に努める。	A	①現状で継続
塩屋貝塚緊急発掘調査	塩屋区の村営住宅建設に伴い塩屋貝塚の記録保存発掘調査を実施	発掘調査の資料整理及び報告書作成	記録保存発掘調査を実施した。	調査を実施し、記録することが出来た	調査により記録された資料を整理し、報告書を刊行する。	A	③事業の終了
太田古墓群発掘調査	太田墓地団地整備に伴う太田古墓群の発掘調査の実施	平成21年度単年度事業	墓地団地整備に伴う埋蔵文化財の記録保存調査の実施	墓地整備範囲の埋蔵文化財を調査し、整備地区以外は現地保存とした。	埋蔵文化財の現地保存に努める。	A	③事業の終了
山田城跡周辺の自然調査	山田城跡保存管理計画の策定に伴い、山田城跡周辺の自然調査を実施	平成21年度単年度事業	調査員に調査を依頼し、地質、植物、昆虫、両生類、鳥類などの調査を実施。	山田城跡の東側は、自然が豊かに残っており、天然記念物のコノハチョウなどの貴重な生物も確認された。	山田城跡の今後の保存計画及び整備に調査成果を活用していきたい。	A	③事業の終了

5 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
栄養教室の開催	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。	給食センターの栄養士は栄養教諭ではなく全ての学校に対応するのは厳しい。関係課と連解する必要がある。	各学校の行事を調整して対応する	学校給食を生きた教材として活用して指導した結果、児童生徒の食に対する正しい知識の育成と望ましい食習慣の形成に寄与することができた。	継続的实施していく必要がある。	A	①現状で継続
村産食材の積極的な活用	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	村内で生産される食材を積極的に活用したいが、個人搬入では限界がある。仲立ちをするコーディネーターが必要。	生産者と連携して地産地消の取組みを行なう。	村内の農家や業者と提携し安全な食材の確保ができた。	食材の確保の仲立ちをするコーディネーターの確保	B	①現状で確保
給食センター見学の推進	給食の調理の状況を見学させて、その安全性を認識させる。	見学時間の確保など、学校現場との連携を密にする必要がある。	各学校と連携し給食センターの見学を行なう。	学校給食が安心して安全な調理施設だということを理解させることができた。	衛生管理を児童生徒に教えるためにも継続して行きたい。	A	①現況で継続
給食費徴収率の向上	安全で質の高い給食の提供するため、各自治会を通して徴収し、未納者はセンター職員が直接徴収。	徴収率が 90%前後に低迷し、よりよい給食の提供に支障が生じる恐れがある。	督促状の送付や電話督促、訪問徴収を実施した。	長期滞納者がおり、目に見える改善には至っていない。	給食費の納付に対する義務意識がない未納者に対する対策必要。	C	②見直して継続 ※未納者対策の再検討

4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成メンバー及び意見の内容は次のとおりです。

(1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会

役職	氏名	任期	備考
委員長	大城勝泰	平成21年8月1日～平成23年7月31日	元教育委員・前村議会議長
副委員長	真栄城慶子	平成21年8月1日～平成23年7月31日	元村子供育成会会長・現恩納校学校評議員
委員	金城啓	平成21年8月1日～平成23年7月31日	前石川高校校長・現安富祖校学校評議員

(2) 意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、10月5日、10月13日に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題の把握の根拠などについて、担当課長及び担当者の出席を求めて説明を受けながら評価を行ないました。また10月25日には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行ないました。その結果を答申いたします。

記

○ 点検評価報告書について

今回の教育委員会の事務、事業点検評価は、今年で2回目の取組みであったが、点検項目並びに事業内容、取組み結果及び課題については、昨年指摘を踏まえて、わかり易く丁寧にまとめられ、担当課が熱心に取り組んだことが伺えました。

評価基準はA評価とB評価の違いがわかりづらく、その違いを示す必要があるとの当委員会の昨年の指摘を受け、目標以上の事業効果をあげた場合の評価指針として新たにSを加えたことでよりわかり易くなりました。

また、評価シートについてもPDCAサイクルに沿って事業展開ができるよう改められ、その結果に基づいて次年度以降の事業展開の方向が示されていることから、担当職員の意識改革につながり効率的な事業展開が期待できると感じました。

一方で各事業について企画段階で数値目標を明らかにし、数値目標の達成状況に応じた評価を行なうことができれば、よりわかりやすい内容になるとの指摘には対応していただけませんでした。また事業実施に要した経費を表示することで費用対効果も含めて村民目線で評価できるものと思います。今後のご検討をお願いしたいと思います。

○ 教育委員会の活動内容について

昨年度同様な内容でまとめられ活動内容が良くわかりました。村長やPTA役員との懇談会の開催など新たな取組みが行なわれ委員会の改革に向けて活動されていることを感じました。更なる取組みの強化に期待いたします。

また委員から会議規則で日程が決まっている定例教育委員会への欠席者が延べ4名いらっしゃることに付いての苦言があったことを添えておきます。

○ 事務事業の評価について

今回は 70 件の事務事業の内部評価を点検しました。その評価内容は A 評価が 30 件、B 評価 33 件、C 評価 4 件、事業未実施による D 評価 3 件となっており、今年から新たに評価指針として加えられた目標以上の効果を出した S 評価はありませんでした。

取組み内容や事業成果を見る限りにおいて、全体的に評価は概ね妥当だと思います。しかし社会教育課所管事業の学校週五日制対応事業は自己評価では A 評価となっておりますが、実施予定が 4 字の子供会を対象としており当初目標が低く、事業のマンネリ化が指摘され、新たな事業展開が望まれることから B 評価が妥当だと思います。また社会教育所管事業の国際交流派遣事業は人材育成の観点から有益な事業ですが、応募者が 6 名と極端に少なく、この状況が長く続いていることから村民への周知徹底、募集体制、研修後の対応に大きな課題があります。事業が実施できたということでの A との自己評価となっておりますが、B 評価とし、現在の高校生、中学生限定を改め広く一般を含めた派遣事業にするべきだと考えます。

C 評価については、事業は実施できたものの当初計画どおり実施できなかったものや人材確保に時間を要し実施時期が遅れたことがその理由となっています。それぞれに理由がありやむを得ないものと認められました。

D 評価は事業が実施できなかったことがその理由として挙げられますが、新型インフルエンザ発生により中止を余儀なくされた事業は別にしてその他の事業は事前の打ち合わせの不十分さや取組みの甘さが指摘されます。特に婦人・青年リーダー育成事業は婦人会や青年会の弱体化がその背景にあり、現状での実施は無理があろうかと思われます。事業を見直して婦人会・青年会の強化策を優先して講じるべきだと思われます。また、青少年劇場小講演事業は内容自体は素晴らしいものであり、日程調整の問題で実施できなかったことは遺憾であります。次年度以降は綿密な調整の下に実施するよう努力してほしいと思われます。

なお、外部評価をしていく中で委員から多様な意見や提言がありましたので、主なものを列記致します。

- ① 教育振興備品は学校で管理をされているが、備品は村の財産であり、その有効活用を図るためには、教育委員会で一括管理を行なう必要がある。
- ② 社会教育事業は、多岐に渡っているが、その対象者が競合しているものが多々あり、そのことが参加者の負担につながっていることが懸念される。今後、事業の内容を点検し、整理統合を行っていく必要がある。
- ③ 村民の教育委員に対する認識は教育の専門家として、高い見識と教育に精通している方々で、その職務は本村教育の課題克服に向けて活発な議論の下に本村教育の方向性を指し示し、事務局に施策に基づいた企画を指示し、その結果を検証するなど、リーダーシップをもって事務局を指導監督しているものだと思っている。しかし、今回の報告書を見る限り村長や PTA 役員との懇談会など新たな取組みは見られるが、活動の大部分は事務局から提案された事件の審議決定や定型的な会議、事業への出席等に終始している感がある。教育委員の方々には今一度、自らの職責を十分に理解され、教育委員会が独立した専門委員会としての機能を発揮していかれることを切に希望したい。
- ④ 博物館については、いろいろな意見もあることから、その運営状況を評価項目に入れて、目標入館者を明確にした評価を取り入れてほしい。

その他、個別の事業については審査の過程で多種多様な指摘や提言がありましたがその全てを列記することはできません。資料として会議録を添付いたしますので今後の事業展開の参考に供していただければ幸いに存じます。

○ まとめ

今回は2年目ということで評価指針、評価シートも改められ、事業成果が一目でわかるようになったことは、行政の大きな課題である前例踏襲主義を排除すると共に担当職員が常に事務事業に高い目標と課題をもって取り組む職場環境の創設に大きく寄与するものと期待ができます。また評価結果に基づいて次年度以降の事業展開まで踏み込んで判断したことは、厳しい財政状況の中で村民ニーズに応える教育行政を展開していく上で大きな意義があるものと評価をします。

事業は実施するだけでなく実施後に検証を行い、課題を見つけ出し次年度はその課題を事業目標に掲げ解決に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことがマンネリ化を防ぎ効率的な事業推進につながります。また職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、高い事業目標を掲げ、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行なわれ、本村教育の更なる振興につながります。今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申と致します。

5 結びに

今回の点検評価は教育委員会にとって2回目ということで、昨年外部評価委員会の意見を取り入れながら、より村民にわかり易く将来の展望が見えることを最重点に改善を加えながら進めてきました。まだまだ何かと不備があるかもしれませんが、今後ともなお一層村民の方々によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう書式を改めて報告していきたいと思っております。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業のより効果的な実施と内容の充実に努めてまいります。

年々複雑多様化する教育の更なる発展に向けて常に現場の声に耳を傾け、問題意識を持ちながら事務事業を進めて行きたいと思っております。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成 22 年 1 1 月

恩納村教育委員会